

教育実習Ⅶ（小学校）の報告

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 教授 村上典章

1 はじめに

教育実習Ⅶは、次年度の小学校教員免許必修の教育実習（教育実習Ⅱ・Ⅲ）に先駆けて、小学校教育の実際にふれ教職への自覚を高めることを目的として実施する。その目標は、学校と教員の仕事、子ども、基本的な指導技術についての理解を深め、教育研究課題と自己を発見し、教職に就くことへの自覚や使命感を高めることである。この実習には、実習体験を通して自己の適性を判断する、多様な文章の添削指導により文章表現力を高める、学習会を通して教育研究の視点や協議のスキルを身につける、宿所での共同生活やグループワークを通して主体性、協同性を育て自己の課題に対する早期取り組みの契機とする等の点で意義がある。

2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前学修 (学内)	4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義、目的、心構え等を再確認する。 ・3年生からの紹介を聞き、実習校を選択、決定する。 ・実習校毎に実習長を中心とする役割分担を行い、実習校、宿所等に関する情報収集、事前学修を行い、パンフレットを作成し、教育委員会、実習校、宿所へ送付する。 ・文章講座「自己紹介の書き方」、「目標の書き方」、「観察・記録のしかた」、「礼状の書き方」を参考に、添削指導を受けながら完成する。 ・「子どもとの関わり方について」、「特別支援教育について」等の講義を受け、理解を深める。
観察実習 5日間 (学外) *宿所へは前日 (日曜日) 移動	6月第3週	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の内容は実習校により計画される。内容の例として、①校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、養護教諭講話、②全学年の授業観察、③スポーツテスト、環境整備作業（教室掲示、プール掃除）等の補助、④学級活動（レクリエーション）の計画、指導等が挙げられる。 ・宿所では、宿泊担当教員の添削指導を受けながら教育実習日誌等の記録をつけ、学修会で討議することで学んだことを客観化、共有化しながら理解を深める。また、生活面で分担された役割を果たす。
事後学修 (学内)	6月～7月 報告会は 7/20に実施	<ul style="list-style-type: none"> ・実習校の全教職員、教育委員会教育長、宿所管理人、その他必要に応じて礼状を作成、送付する。 ・各自の実習を振り返り、報告会レジュメと報告書を作成し、報告書は教育委員会、実習校へ送付する。 ・各実習校の実習長、副実習長による実行委員会を中心に報告会を実施する。報告会では、個人の成果と課題、グループ毎のテーマについて協議し、学んだこと等について発表する。

3 活動の概要

(1) 実習校並びに宿所

実習校	人数	宿所
山県郡北広島町立新庄小学校	13名	グリーンヒル大朝
山県郡北広島町立大朝小学校	13名	グリーンヒル大朝
山県郡北広島町立豊平小学校	22名	どんぐり荘
安芸高田市立船佐小学校	8名	エコミュージアム川根
安芸高田市立来原小学校	10名	エコミュージアム川根
安芸高田市立川根小学校	6名	エコミュージアム川根
呉市立下蒲刈小学校	15名	松寿苑

(2) 教育実習を通して学んだこと（学生の報告書より）

- ・この実習を通して、教師という職業の大変さに気づくとともに、やりがいのある仕事だと改めて感じた。私は、複式学級の授業を初めて見た。1時間に2つの内容を扱い、児童のつぶやきも漏らさずに進めている先生の姿はとても勉強になった。タイマーを用いて時間を正確に計り集中させており、児童の興味を引く展開・発問など、先生の工夫がたくさんあった。そして、先生方は児童の様子や状況を把握し、個々に合った指導を考えておられた。また、児童たちと関わる中で改めて可愛らしさと素直さを感じることができた。うまくいかなくとも頑張ろうとする姿や児童同士で教え合ったり支え合ったりすることがあった。一生懸命に成長する児童たちを側で支えられる教師のやりがいは他では得られないと思った。（略）また、担当していただいた先生から日誌のコメントを毎日いただいた。その中で、「一人ひとりの子ども達をよく見て声をかけていた」という励みになるととても嬉しいお言葉をいただいた。私自身、心がけていたことだった。積極的に子ども達と関わることをできたと感じる。この実習を通して、一人ひとりの子ども達と向き合い、支援できる教師になりたいと強く思った。

4 成果と課題

今年度も、1日2コマ連続の事後報告会、3年生のアシスタントを継続した。その結果、昨年度よりもアシスタントをうまく活用し、両者の満足度が上がった。

また、今後の実習生の増加、児童数の減少、新教育課程への移行等を考慮し、実習生87名を対象に次年度の実習方法について調査を行った。その結果と主な理由は次のとおりである。

- ①「5日間連続の宿泊実習を行う（従来通り）」…80名（92.0%）
 - ・一週間を通しての学校の動きや教員の仕事、子どもについての理解が深まるから。
 - ・実習に専念することができ、共同生活を通して実習生間の協同性も高まるから。
- ②「1,2泊実習を間隔をあけて数回行う」…5名（5.7%）
 - ・慣れない環境で共同生活をする中で、心身ともに疲れるから。
- ③「宿泊をせず、1日実習を間隔をあけて数回行う」…2名（2.3%）
 - ・体調が悪くなるから。

この結果も参考にして、次年度は5日間の宿泊指導を行うこととするが、実習校の決定や実習中の実習生の心身の状況等についてさらに細かい配慮を行う必要がある。